

フィリピンにおけるサイエンスクラブを通じた 防災活動におけるユースの参加に関する研究

フェルナンデズ グレン フィエル

キーワード：防災、ユース参加、サイエンスクラブ

1. 研究背景

これまでの防災における研究では、ユース(児童・生徒・学生などの年代を示す)は、災害被害を無抵抗に受けやすい存在だと捉えられてきた。その背景としては、災害リスク情報の取得やその理解、経験や様々な事前の備えをすることが難しく、災害へ自発的に対応することが困難であると考えられてきた点がある。しかし、2010年8月から2011年8月に実施された国連ユース年記念を機に、ユースそのもの、そして防災活動のような課題においてユースが果たす重要な役割に、改めて関心が集まっている。本研究では、ユースの防災活動参加を促す糸口の検証と、またそれを阻む要因の解決方法についての検討を行うことを目的とした。

2. 研究方法

本研究では、サイエンスクラブがユースの防災活動参加に対して有効な手段であるという仮説を検証するために、定性的かつ定量的なデータ収集を目的としたアンケート調査を実施した。調査は、フィリピンサイエンスクラブに所属する生徒(658人)、80人のサイエンスクラブアドバイザーを対象として行い、アンケート調査、ヒアリング調査、フォーカスグループディスカッション(FGD)を通じて行った。

3. 研究結果

調査結果から、フィリピンにおけるサイエンスクラブを通じた防災活動へのユースの参加の度合いは中程度であると分かった(サンプル数658、5段階評価、総数加重平均値=3.68)。サイエンスクラブの指導を務める先生は、防災に関するクラブ活動を実施する上で、アドバイザーとして非常に重要な役割を果たし(5段階評価・平均値=4.40)、また、クラブアドバイザーのクラブ活動への積極性はクラブメンバーやクラブそのものの活動の積極性を左右する傾向にあった。一方、多くのサイエンスクラブが、防災活動を実施するための資金が十分ではなく(同平均値=2.75)、資金源そのものも限られている(同平均値=3.18)との意見がみられた。サイエンスクラブのメンバーである生徒たちは、彼らの防災知識が不足していると感じ、防災活動のためには災害に関する情報を有する政府機関と連携を図ることが必要であるとも考えている(3段階評価・平均値=2.64)。また、彼らは防災活動を実施する上で、地域のリーダーたちの率先力が重要である(同平均値=2.59)とともに自分たち自身が防災に関して知識・理解を持つことも不可欠であると考えている(同平均値=2.39)。一方で、防災活動に対する各世代の協働性は最も低い値を示し(同平均値=1.20)、これは同時に長年大人主体で行われてきた防災活動に、ユースの参加が少ないことが影響していることが示唆される。

4. 結論

ユースの防災活動参加を支援する枠組み(知識、資源、地域支援)の存在によって、多様な方法でユースの防災活動参加の可能性が高くなることが考えられる(図-1)。サイエンスクラブの生徒たちやアドバイザーは、家庭や学校、地域の状況をよく把握しており、地域資源に関する理解も深いため、地域に根ざした継続的な防災活動をサイエンスクラブが実施することは、地域防災力の向上に大きく貢献することと考えられる。

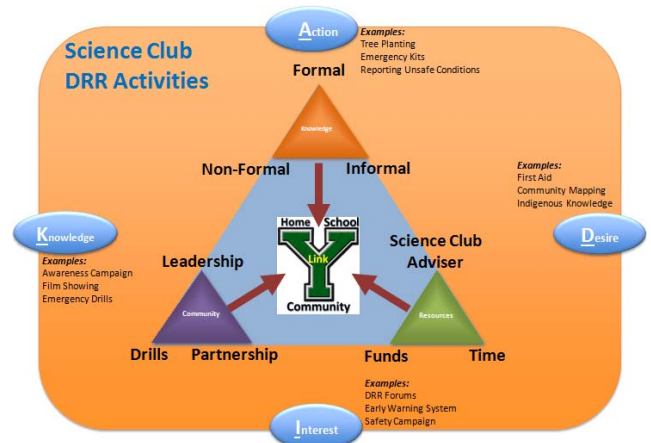


図-1 サイエンスクラブにおける防災活動と
家庭 - 学校 - 地域間の連携支援体系